

## 2018 年度自然史学会連合総会 議事録

2018 年 12 月 22 日（土）14:30-15:30（東京大学総合研究博物館ミュージズホール）

議長 藤木利之（日本花粉学会）

運営委員 大路、保坂、齋木、藤井、海老原、猿渡、佐々木、藤田

参加団体 38 学協会中、35 団体出席、委任状 3 団体で総会成立

### 報告事項

- (1) 加盟団体の現状：2018 年 12 月 22 日現在（藤井）資料 1～3  
38 学協会（動物行動学会脱退、植物地理・分類学会が日本植物分類学会へ合流）
- (2) 運営委員会の開催（保坂）  
3 回開催（5/14, 10/15, 12/22）議事録を配布し（資料 4）、内容を周知した。  
必要に応じて本年度中に第 4 回を開催予定
- (3) 博物館部会の開催（齋木）資料 5  
3 回（3/13, 5/14, 10/15）開催  
ICOM 京都大会にて、京都大学総合博物館との共催でサイドイベント開催を検討  
「博物館資料保全のための声明」をとりまとめ、HP に掲載した
- (4) 講演会の開催（保坂・齋木）講演資料集配布、資料 6  
平成 30 年度自然史学会連合講演会「海と山岳のきとくと自然史研究」  
富山市科学博物館、2018 年 10 月 28 日  
講演会 4 演題、聴衆約 100 名、体験教室 6 団体 7 コーナーが開催された
- (5) ブラジル国立博物館の火災被害に対する声明文（藤井）資料 7  
博物館の予算減に基づく人災による自然史資料の消失を繰り返さないために、加盟学協会の意見を参考に声明文をとりまとめ連合 HP で公開した（11 月 26 日公開）。  
今後、英文化も検討。
- (6) 2019 年度講演会（藤井）資料 8  
通常講演会は実施せず、ICOM 京都大会（2019 年 9 月）サイドイベントとして 9 月 4 日午後に京都大学芝罘会館稲盛ホールにて国際シンポジウム「研究活動、資料収集、普及教育、アウトリーチを推進するツールとしての自然史博物館ネットワーク：アジアの事例研究」開催を予定（概要は 10 月 20 日に連合 HP 掲載）。京都大学総合博物館との共催。講師 5 名中、4 名内諾、1 名調整中。

博物館ネットワーク活動に関するポスター発表を同時開催。国内・国外博物館関係者の活動報告など参加者歓迎。3月末にプログラム公開予定。

(7) 式典への出席 (大路)

国際生物学賞授賞式 (11月19日上野学士院) およびコスモス国際賞 (11月14日大阪泉ホール) の様子を報告

(8) 感謝状の発送 (大路)

東海大学出版部 稲英史氏

東京大学出版会 光明義文氏

自然史関係の出版に多大な貢献をした両氏が退職されるにあたり、連合として謝意を表した。

(9) シンポジウム後援 (藤井・猿渡) 資料9

・藤原ナチュラルヒストリー財団主催「北海道シンポジウム『恐竜と鳥のはざま』」  
2018年10月14日、北海道大学総合博物館 (参加者200名以上)

・中高生海洋生物学シンポジウム開催後援の決定 (於科博・2019年2月1日開催)

(10) HPの運営 (藤田)

加盟学協会一覧、運営委員情報更新 (5月)、講演会情報掲載 (9月)、ICOM 京都国際シンポジウム情報公開 (10月)、ブラジル国立博物館火災関連声明公開 (11月)、公募情報1件 (10月海洋研究開発機構)

(11) 出版物 (保坂)

① 理科好きな子に育つふしぎのお話 365」中国本土版の出版

春・夏・秋・冬で4分冊になっている。台湾版、韓国版については報告済み。

② 理科好きな子に育つふしぎのお話 365」ハンディ版の出版

「びっくり編」「へんてこ編」「なぜどうして編」の3部に再編集して発行する計画で作業進行中。

(12) その他 (保坂)

生物科学連合へオブザーバーとして出席 (運営委員の佐藤)

## 審議事項

(1) 2017年度決算報告 (海老原・北山)

資料10「会計監査報告」配布

講演会2回実施したが、当初予定の予算内におさまり、繰越金は2016年度より微増

2019年度会計監査員のお願いを今後、運営委員会より個別相談  
会費納入について、各学会の会計担当者への連絡徹底をお願い

(2) 2019年度事業案・予算案 (藤井)

- ・運営委員会の開催 (4回程度) 予定
- ・博物館部会の開催 (3~4回) 予定
- ・講演会の開催

ICOM 京都大会期間中に国際シンポジウムを開催予定

実行委員会 (運営委員会、京都大学総合博物館、外部) で進行

連合から 60 万円支出 + 助成金申請予定 + 京都大学総合博物館 (会場提供・人的負担)

ポスターセッションの概要は調整中

・昆虫分類学会より GBIF や S-Net の話題提供はないのか質問があった。運営委員会からは、必ずしも今回の趣旨に添わないため講演では想定していないが、パネルディスカッションなどでの話題提供を検討する、と回答した。

- ・2019年度予算案 (海老原) 資料 11

講演会に代えて国際シンポ開催費 60 万円を計上、他は例年通り

資料 11 に基づいて承認

(3) 自然史学会連合共催イベントへの資金補助について (海老原・大沢) 資料 12 配布

日本生態学会のフォーラム「大学にある自然史標本をどう守るか」の共催および演  
者の旅費支援依頼 (3 万程度?)

内容的には連合 (博物館部会) の趣旨に適合

2018 年度会計の予備費で支出可能

生態学会参加者は通常 2000~2500 名、うち非会員 200 名、学生・中高生は無料。

フォーラム内容は学会誌上で掲載、オープンアクセス

- ・ガイドラインを設けるべきという意見があるが、今回は承認し、今後の同様の要望の状況をみながら、運営委員を中心にガイドラインを検討することとなった
- ・加盟学協会員を無料参加するべきとの意見があったが、生態学会の運営上の理由 (現場での自然史学会連合会員の判定など) が困難であることと、フォーラム内容を学会誌上で無料公開することです承。
- ・以上の議論を経て、挙手にて承認された

(4) 代表選挙への細則について (藤井)

委任状の取扱いについて議論し、総会出席者による選挙で問題ないとの認識で一致  
複数の候補者が同数得票の場合には、抽選とすることです承

以上の議論をもって、参加者全員の賛成により運営委員会作成の原案が承認された

(5) その他

- ・講演会について、2019年度は通常の講演会は開催せず、2020年度から通常開催予定（会場は調整中）
- ・沖縄の国立自然史博物館誘致への自然史学会連合の協力要請があり、これまで同様に文科省マスタープランへの応募には協力するが、内閣府主導の案件への協力は慎重になるべきとの意見で一致。今後、状況に注視しながら運営委員会を中心に対応を検討。